

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 5 日現在

機関番号：16401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25770106

研究課題名(和文) 『イギリス国民伝記辞典』にみられるジェンダー・イデオロギーとその背景

研究課題名(英文) Gender Ideology as Reflected in the Dictionary of National Biography and its Cultural Background

研究代表者

長谷川 雅世 (Hasegawa, Masayo)

高知大学・教育研究部人文社会科学系教育学部門・講師

研究者番号：30423867

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はDictionary of National Biography (DNB) の伝記記事を分析し、そのジェンダー的特徴を明らかにすることを目的とした。本研究では主として、19世紀のレディ・トラヴェラーたちの伝記記事と18・19世紀の女流作家たちの伝記記事を分析した。これらの分析を通して、DNBには理想の女性像を家庭の天使とし、女性の領域を家庭に限定する考え方が読み取れることを明らかにした。そして、辞典全体の編集方針を無視してまでこれらの考えに固執したDNBは、辞典出版当時のヴィクトリア朝のジェンダー・イデオロギーを色濃く反映していると結論づけた。

研究成果の概要(英文)： This research aimed to reveal the gender characteristics of the Dictionary of National Biography (DNB) by analysing individual articles. The research mainly analysed articles written about lady travellers of the 19th century and women of letters of the 18th and 19th centuries. This analysis demonstrated that the DNB espoused the view that women should be angels of the house, and saw their proper realm as exclusively the domestic sphere. The DNB went so far as to ignore its own editorial policies in order to endorse these notions. This research therefore concluded that the DNB was deeply steeped in contemporary Victorian gender ideology.

研究分野：英文学

キーワード：DNB ヴィクトリア朝 ジェンダー レディ・トラヴェラー 女流作家

1. 研究開始当初の背景

Dictionary of National Biography (『イギリス国民伝記辞典』、以降 *DNB*) とは、レズリー・スティーヴン (Leslie Stephen) が編集者を務め 1885 年から 1900 年に刊行された「英国に住んだことがあるか英国に関わりのある特筆すべき人物たち」の伝記辞典である。さらに、1901 年と 1912 年には彼の意思を受け継いだシドニー・リー (Sydney Lee) を編集者として増補巻が発刊された。それ以降も 1996 年まで増補が行われた。これらの *DNB* 本体とその増補巻に加筆、修正等を加えて、2004 年に *Oxford Dictionary of National Biography* (以降 *ODNB*) が出版された。

この *ODNB* の計画と出版を契機に、*DNB* についての研究が次々と発表された。それら従来の研究では、この伝記辞典がヴィクトリア朝の道徳観やイデオロギーを反映しているか否かについて議論されることが多く、そのなかで批評家たちの意見は二分されてきた。例えば、キャナダイン (Cannadine 1981) は *DNB* を「偉大なヴィクトリア朝の記念碑」や「19 世紀後期の自尊心」による作品と呼び、そこではヴィクトリア朝的道徳観が「色濃く、固執で、確固として」存在していると述べている。それに対して、ゴールドマン (Goldman 2006) は、*DNB* を「驚くべきほどイデオロギーや特定の時代にとらわれていない作品」と評している。このように意見は対立している。しかし、女性の扱い方に焦点を絞った場合、*DNB* に対する批評家の評価は、「男性中心主義的である」という意見で一致している。例えば、フェニック (Fenwick 1994) は *DNB* を「ヴィクトリア朝の男性社会の記念碑」と呼び、マシュー (Matthew 1997) は *DNB* は「男性著述家の伝統」を体現したものだと言っている。

DNB が「男性中心主義的」であることは、これまで繰り返し指摘されてきた。そしてその主たる根拠とされてきたのは、*DNB* の伝記記事を執筆した女性寄稿者の数や *DNB* で伝記主題として扱われた女性の数の少なさといった *DNB* の「かたち」に関してであった。言い換えれば、個々の伝記記事の内容といった「なかみ」から、十分な考察がなされてきたとは言い難い。また、具体的にどのようなジェンダー観が *DNB* に読み取れるのかが例証されてきたとは言えない。

上記のような状況で、*DNB* が「男性中心主義的」であるか否かを、*DNB* の「なかみ」から再検証する必要があった。また *DNB* に見られるジェンダー観を具体的に明らかにする必要もあった。これが本研究の背景である。

引用文献

Cannadine, David. "British Worthies." *London Review of Books* 3 (1981): 3-6.

Fenwick, Gillian. *Women and the Dictionary of National Biography: A Guide*

to DNB Volumes 1885-1985 and Missing Persons. Aldershot: Scholar Press, 1994.

Goldman, Lawrence. "A Monument to the Victorian Age? Continuity and Discontinuity in the Dictionaries of National Biography 1882-2004." *Journal of Victorian Culture* 11.1 (2006): 111-132.

Matthew, H. C. G. *Leslie Stephen and the New Dictionary of National Biography: Leslie Stephen Lecture Delivered 25 October 1995*. Cambridge: Cambridge UP, 1997.

2. 研究の目的

本研究は、*DNB* が「男性中心主義的」であるのかを再検討し、そこにみられるジェンダー観を具体的に明らかにすることを目的とした。それを証明するために、従来の批評家たちが行ってきた女性寄稿者や主題として扱われた女性の数という *DNB* の「かたち」の分析だけでなく、伝記記事での女性の描かれ方といった *DNB* の「なかみ」の分析も行う。そうすることで *DNB* がどのように「男性中心主義的」なのかを例証できる。さらに、女性を主題とした *DNB* の伝記記事をその他の伝記、例えば、同人物を扱った *ODNB* の伝記記事や *DNB* と同時代に書かれた伝記、男性を伝記主題とした *DNB* の記事などと比較する。これによって、*DNB* のジェンダーに関する特徴、特にその女性観が明確になると考える。

本研究のさらなる目的は、*DNB* のジェンダー的特徴の背景を明らかにすることである。*DNB* の編集者であり主要寄稿者であったレズリー・スティーヴンとシドニー・リーの編集方針をはじめとする *DNB* に対する考え方や他の寄稿者たちのジェンダー観や彼らの社会的立場などを考察する。この考察を通して、*DNB* に読み取れるジェンダー観の社会的・文化的背景を示したい。

3. 研究の方法

(1) *DNB* と *ODNB* において伝記主題として扱われている女性の比較を行った。これら 2 つの伝記辞典を比較し、*DNB* ではどのような女性が伝記主題となっているのか、*DNB* のジェンダー的特徴を最も分かりやすく表している伝記主題は誰なのかを考察した。そしてその結果を基に、本研究が「なかみ」を詳細に分析する伝記記事を、レディ・トラヴェラーと女流作家の伝記記事に限定した。

(2) 大英図書館で、『アシニアム』誌に掲載されたレズリー・スティーヴンの *DNB* に関する著述とヴィクトリア朝のレディ・トラヴェラーに関する当時の伝記的著述を中心に一次文献の収集を行った。

(3) 上記(1)の考察と同時に、レズリー・スティーヴンとシドニー・リーが *DNB* や伝記全般について言及している著述を分析し、彼らの *DNB* の編集方針を明らかにした。

(4) *DNB* のレディ・トラヴェラーを主題として扱った伝記、特にメアリー・キングズリー (Mary Kingsley) の伝記の「なかみ」を分析した。*DNB* の伝記記事が、彼女たちの人生のどこに重点を置き、彼女たちを如何なる言葉でどのように描写しているのかを考察した。また、彼女たちを主題とした他の伝記記事との比較も行い、*DNB* の特徴を明らかにした。

(5) 大英図書館で、*DNB* の主要寄稿者のひとりであったリチャード・ガーネット (Richard Garnett) に関する文献収集を行った。また、彼が *DNB* で伝記主題とした扱った 18 世紀・19 世紀の女流作家たちに関するヴィクトリア朝期の伝記的著述の収集も行った。

(6) メアリー・シェリー (Mary Shelly) やフランシス・トロロープ (Francis Trollope) をはじめとするリチャード・ガーネットが書いた女流作家たちについての *DNB* の伝記記事を分析した。上記(4)と同様にこの分析では、彼女たちがどのような言葉でどのように描かれているのかを考察し、*DNB* のジェンダー的特徴を明らかにした。さらに、*DNB* 出版当時のイギリス文芸界の重要人物のひとりであったガーネットによる伝記記事を扱うことで、当時の文芸界における女流作家の立場についても明らかにしようとした。

4. 研究成果

(1) 2013 年 10 月の京都府立大学英文学会第 5 回大会で、*DNB* でのレディ・トラヴェラーの描かれ方とそこから分かる *DNB* のジェンダー的特徴について発表を行った。この発表では、*DNB* には主に次の 4 つの特徴があることを指摘した。1 つ目は、レディ・トラヴェラーの人生における男性の影響力の重要性の強調していること。2 つ目は、家族との関係や家庭での出来事を重点的に語ることで、彼女たちにとって重要な活動領域は家庭であることを主張していること。3 つ目は、彼女たちの家事の能力や道徳性や精神性を褒め称えていること。4 つ目は、彼女たちの勇敢さや政治的関心、換言すれば、当時の社会で女性らしさとは相いれないものと考えられていた彼女たちの性質について言及することを避けようとしていること。これらの特徴から、*DNB* は「分離された領域」や「家庭の天使」というヴィクトリア朝時代のジェンダー・イデオロギーを色濃く反映していると結論づけた。

(2) 日本ヴィクトリア朝文化研究学会の学会誌『ヴィクトリア朝文化研究』に、論文「*Dictionary of National Biography* とヴィクトリア朝のジェンダー・イデオロギー—家庭の天使に姿を変えられた Mary Kingsley」を発表した。この論文では、*DNB* のメアリー・キングズリーの伝記記事に焦点を絞り、上記(1)で述べた *DNB* の複数のレディ・トラヴェラーの伝記に共通して見られた特徴をより具体的に例証した。また、*DNB* の伝記を同時代のメアリー・キングズリーの伝記的著述や *ODNB* の伝記記事と比較することで、上記(1)で挙げた特徴が彼女を扱った伝記全般に見られる特徴ではなく、*DNB* の伝記の特徴であることを明らかにした。さらに、彼女の家庭という私的領域での活動に重点が置かれ、彼女が家庭の天使であったことを強調しようとしているメアリー・キングズリーの伝記記事は、*DNB* 全体の編集方針「伝記主題に関する多くの情報を公平かつ冷静に積み重ねること、私的領域ではなく公的領域での人生に焦点をおくこと、伝記主題人物に対する道徳的批評を避けること」に反していることを指摘した。そして、これらの編集方針は伝記主題が男性の時に遵守されるべきものであり、*DNB* には性差による二重基準が見られることも指摘した。

(3) リチャード・ガーネットは、数多くの伝記を *DNB* に寄稿した。彼は *DNB* の編集・出版組織を代表する人物だったと言える。同時に、彼は *DNB* 出版当時のイギリス文芸界を代表する人物でもあった。このガーネットが書いた女流作家についての *DNB* の伝記記事を分析することで、*DNB* の女流作家の描き方の特徴と同時に、当時の文芸界が女流作家をどのように見ていたのかを考察した。考察の結果、ガーネットによる女流作家の伝記にも、上記(1)で述べたものと類似した特徴が見られることが明らかになった。さらに、生来的に知性という点において男性に劣る女性の文学作品は男性の文学作品よりも下位に置かれ、彼女たちの作家活動はプロフェッショナルよりもアマチュア的なものとして見られていた。そしてこれは、ガーネットが代表する当時の文芸界における女流作家に対する見方の主流だったことも指摘した。また、*DNB* 出版当時は、男性中心主義社会を支えていた「分離された領域」や「家庭の天使」といったヴィクトリア朝のジェンダー・イデオロギーが疑問視され、否定されつつあった時代だった。同時にそれは、その男性中心主義に対する脅威に抵抗すべく、それらのイデオロギーを強化しようとしていた時代でもあった。そして *DNB* はこの 2 つの時代の流れのうち、後者に積極的に与していたと結論づけた。この考察は論文にして学会誌に投稿した。論文は現在査読中である。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

長谷川雅世、「*Dictionary of National Biography*とヴィクトリア朝のジェンダー・イデオロギー—家庭の天使に姿を変えられた Mary Kingsley」、『*ヴィクトリア朝文化研究*』、査読有、第12号、2014、pp.5-26

[学会発表](計1件)

長谷川雅世、「*The Dictionary of National Biography*におけるジェンダー レディ・トラベラーを中心に」、京都府立大学英文学会第5回大会、2013年10月6日、京都府立大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長谷川 雅世 (Masayo HASEGAWA)

高知大学・教育研究部人文社会科学系・
講師

研究者番号：30423867

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし